

令和3年度流水救助訓練を実施しました。



令和3年7月6～8日にかけて、救助隊員延べ26名が台風及び市内河川等で発生する水難事故への対応を強化するため、確実な操作及び技術と知識の維持管理を目的として訓練を実施しました。



訓練場所：米代川（花輪字観音堂地内）

・訓練内容の紹介

①テンションダイオゴナル

水の流れに対して45度の角度でロープを張ることで事故落水者※の救出に使用します。

※流水域における要救助者

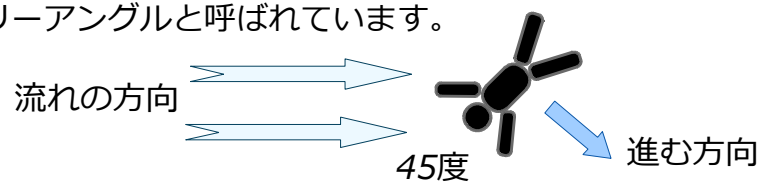


②ディフェンシブスイミング（流水防護泳法）



進みたい方向に頭を向け、45度の角度を保つことで流れの力を利用して進むことができる泳法です。フェリーアングルと呼ばれています。

イメージ図



③アグレッシブスイミング（顔を上げた状態でのクロール）

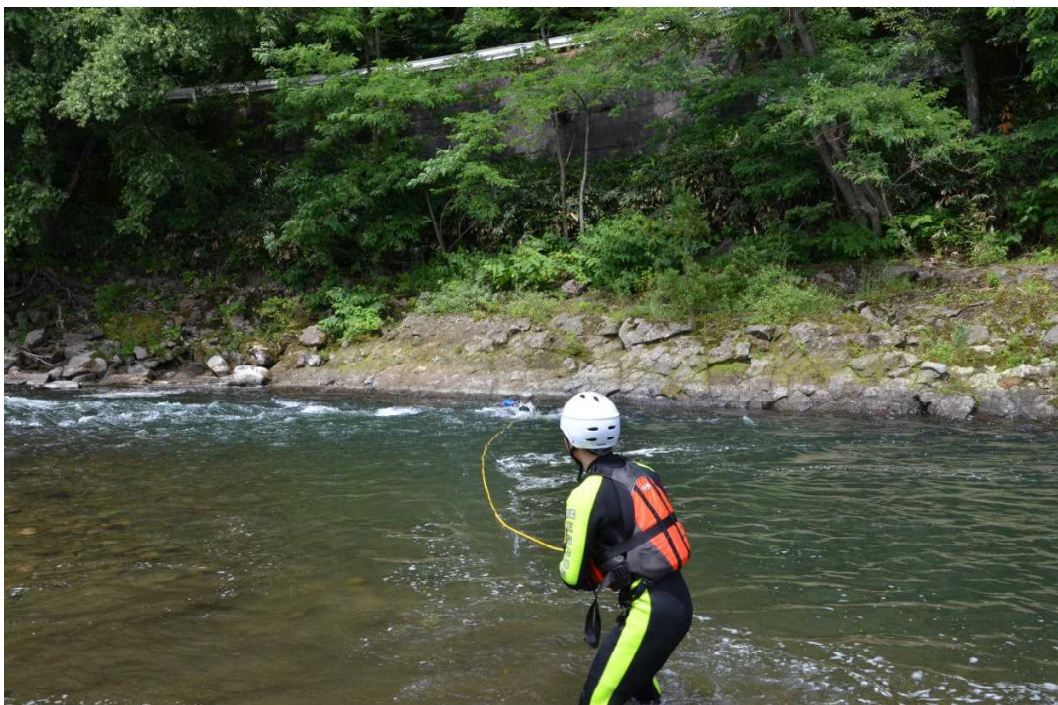


クロールの姿勢で、激しくキックを打ちながら泳ぐ泳法です。目的地又は事故落水者を注視するために顔を上げて泳ぎます。

④スローバック救助



約20mのロープが収納されているスローバックを使用します。
事故落水者が流れてくる下流で待ち構えます。ロープをつかむよう声かけを行いながらスローバックを事故落水者めがけて投げます。



流されている人の視界は非常に悪いため、ピンポイントに投げなければなりません。



事故落水者がロープを受け取ったら、ロープを保持して流れの弱い川岸まで誘導します。強く引いてしまうと流れの強さ（動水圧）で事故落水者が沈んでしまうため、慎重に行います。

⑤ライブベイトレスキュー



PFDと呼ばれる救命胴衣にロープを取り付けた救助者が、アグレッシブスイミングで事故落水者を救出しに行きます。



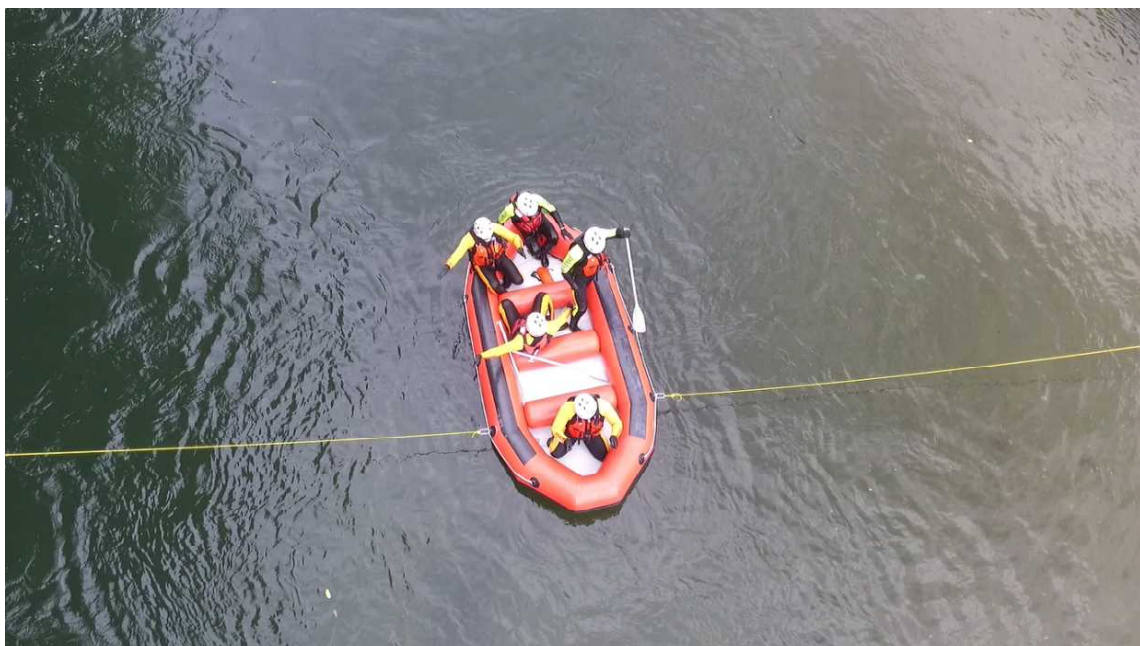
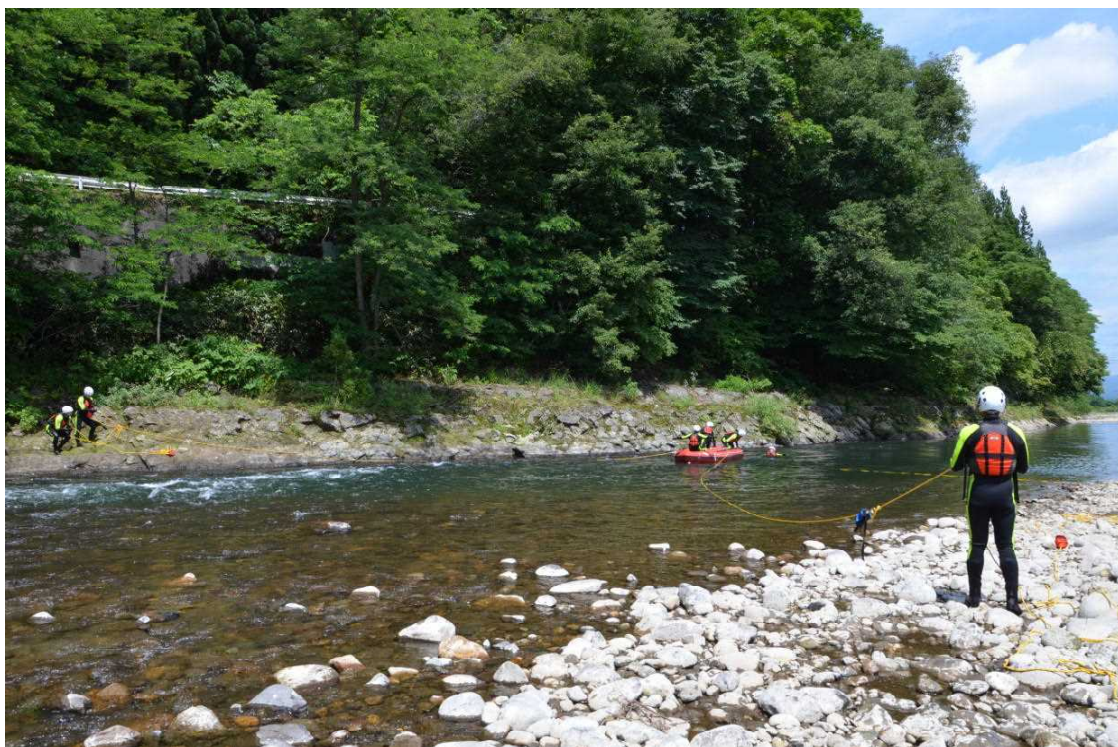
要救助者を確保した後はロープを保持している隊員に川岸まで誘導してもらいます。

⑥ 浅瀬横断



複数の人が寄り添うことで川の中を歩くことができます。渡れる水深は歩く人の中で最高身長の高さ以下が目安です。写真はウェッジ法と呼ばれる横断法です。他にも横列法、三角サポート法があります。

⑦ 2ポイントボートティザーシステム



ボートに誘導ロープを2カ所設定して、ボートを安定させ、事故落水者の場所まで操船して救助するシステムです。急流域では水の音により音声での意思疎通が困難な場合があるため、ボートに乗船している救助者は、ハンドシグナル及びホイッスルシグナルを併用した「リバーサイン」と呼ばれる国際共通サインを使用して誘導方向をロープ保持者に伝達します。

今回の訓練で技術研鑽することができ、有意義な訓練となりました。
今後も訓練を継続して、圏域住民の安心・安全を守ります！



